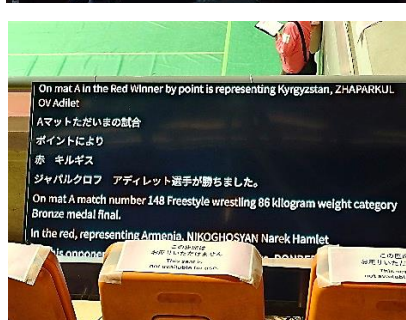




TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

スポーツに最適な心地よい日差しが差し込んだ11月後半。東京都及び3県を会場にしてデフリンピック第25回大会が行われました。**日本初開催**となる本大会で、日の丸を背負って世界に挑むデフリンピアンたち。熱戦に次ぐ熱戦を経て、26日に閉会式を迎えました。12日間に及ぶ競技日程で獲得した**合計51個のメダル**は、日本勢として過去最多でした。

観戦無料の気軽さから、私は6競技を観戦。芳我先生も、教え子が所属する女子サッカー代表を応援しに、福島県のJヴィレッジまで行ってしまおう本気ぶり！スポーツに親しむ機会だけでなく、世界各国から来た人々と交流することもでき、大変有意義な機会になりました。



今大会を通じ、**多様性を認め合う社会の実現**にまた一步近づいたと感じました。デフリンピックによって「きこえる人」と「きこえない・きこえづらい人」を遮る**バリアがひとつずつ取り除かれていく感覚**がありました。

会場は入場規制がかかるほど、連日多くの観客が詰めかけていました。開幕当初、会場を包んだ「手を叩く拍手」は、次第に「両手をひらひらさせる手話の拍手」に変わっていききました。私自身も、「面白い試合なのに静かだな」と感じた直後、「会場の熱気＝声による応援」の感覚が、きこえる人が無意識に抱きがちなステレオタイプであることに気が付きました。

帰りのバスでは、きこえづらい人が苦勞する場面を紹介したサイトを見ていた夫婦が、「きこえる人たちが笑っている理由を尋ねても、「何でもないよ」「大した話じゃないよ」と教えてもらえないから笑ってやり過ごすんだって。」と話していました。

同じ場で過ごしていても話題を共有できないことがある。そんなきこえない人たちの状況に、**きこえる人たちが気づき、向き合い、どうすれば良いかを考える**ことは、より良い社会を実現する上でとても大事な感覚です。今大会では、サインエールや手話、会場ビジョンやスマートグラスに映し出される情報保障、スマホを使った筆談など、様々な方法でバリアが解かれ、誰もが心を通わし合いました。

通級生が大人になった頃、近い未来の日本にどうなっていてほしいか。それは、**きこえない人が快適に暮らせる社会**。そのためには、**自立的に環境調整をし、きこえる人と協働して実現していく力が必要**です。その実現に向け、日々の教育活動に精一杯取り組んでいこうと思えた12日間でした。



水泳最終日、会場には**天皇皇后両陛下並びに愛子内親王殿下**がご臨席。直後、日本代表は 4×100m リレーで男女共に銅メダルを獲得！

各国代表は**手話で国家斉唱**。
写真はイタリア・女子バレーチーム。



水泳会場でのユニバーサルコミュニケーション体験

NTT コ/キュー社の「スマートグラス」

会場音声を字幕化してメガネ型のデバイスのレンズに表示。選手名やレーン、タイム、順位を、会場の大型モニターの方を向かずとも確認でき、競技に集中できました。また、視線がマウスポイントになるので、画像・映像コンテンツを楽しめる工夫も。ありがたいのは視力に合った度付きレンズの用意。耳掛け式補聴器を装着してのフィット感を確かめてみたいです！

㊦卓球・バドミントン会場で実施された「**ミルオト**」。4年前にも上野駅ホームで限定稼働していました。
㊦公式 YouTube チャンネルでは、「日本手話」「国際手話」を添えたライブ中継を実施。**日本手話中継では実況の文字起こしも**されていました。

画像：公式 web、Youtube より抜粋

一部の会場で実施

ミルオト（株式会社方角）

卓球・東京体育館／バドミントン・京王アリーナ
TOKYO

- ・卓球・バドミントンのラリー音や歓声を観音で可視化して、会場内に設置したディスプレイ等へ表示します。競技の音や臨場感を視覚で楽しむことができます。
- ・対象コートで試合が行われている時間帯にご覧いただけます。



提供：株式会社方角



12月の予定

12月 3日（水）：委託聴力検査（関東労災病院）

集合 13時45分 蒲田駅 東急線改札口前

12月 18日（木）：グループ学習「学級忘年会」